

4 「規範意識の芽生え」に関する発達の道筋及び大人の関わり

「規範意識の芽生え」を培う三つの視点【関わり・自立・規範】に基づき、おおむね6か月未満から5歳児の「発達の道筋」と、発達に応じた「大人の関わりで大切にしたいこと」を明らかにしました。

内容は主に保育者向けに記述していますが、保護者や地域の方等、それぞれの立場で活用していただけるよう、「大人の」関わりと表記しています。

(1) おおむね6か月未満～おおむね3歳

視点	おおむね6か月未満 情緒の安定のために、愛情をたっぷり	おおむね6か月から1歳3か月未満 温かい応答で、心地よいコミュニケーションを	おおむね1歳3か月から2歳未満 新しい行動は、大人の「まねっこ」から	おおむね2歳 「いや!」「じぶんで!」は成長の証 余裕をもった関わりを	おおむね3歳 「やってみよう」「やったらできた」 満足感を大切に
《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など	○落ち着いた雰囲気の中で、抱く、あやす、語り掛けるなどをしてもらうことで、安定した気持ちと喜びを味わう。	○大人と視線を合わせ、表情や喃語などを通してやり取りを遊ぶ。 ○大人の語り掛けや働き掛けに、声を出したり、応えようとする。	○生活や遊びの中で大人を仲立ちとして、簡単な単語や物のやり取りをする。 ○大人と触れ合ったり、話をしたりすることを通じて気持ちを通わせる。 ○思い通りにならないときに、自分本位の行動が目立つ。 ・他の子供に対して、かみついたり、ひっかいたりすることがある。	○一人遊びを楽しみながら、大人の仲介により、同年齢の子供にも関心をもって遊ぶ。 ○大人遊びをしながら、大人の仲介により、同年齢の子供にも関心をもって遊ぶ。 ・思い通りにならないときはかんしゃくを起こしたり、頑固な行動を取ったりする。 ○褒められたり、感謝されたりすることを喜び、うれしく感じる。	○平行遊びだが、同年齢の子供と少しの間一緒に遊ぶ。 ○同年齢の子供との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、大人の仲介により、相手の思いを知る。 ○大人に褒められることを喜び、頑張ろうとする。
《自立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など	○声や泣き声、ほほえみなどで自分の欲求を表現し、なだめられたり、受け入れてもらったりすることで安心する。	○心地よいときは笑ったり、ほほえんだりし、不快なときは泣いたりして気持ちを伝える。 ○大人 ○大人の表情を読み取ろうとしたり、大人のことをほほ理解したりする。 ○衣服の着脱など、身の回りのことに関わるようになる。 ・服を着せるとき、自分から袖に腕を通したり、パンツに足を通したりする。 ○大人を模倣しながら、挨拶のしぐさをしようとする。	○「～したい」「～がほしい」という思いが強まり、身近な大人に要求する。 ○「いや」「～がほしい」という思いが強まり、身近な大人に要求する。 ○いらないことを注意されると、泣いたり、しゃべりたりする。 ○大人 ○自分の物、人の物の区別がつく。 ○片付ける場所が分かり、片付いた状態を気持ちよく感じる。 ○大人に促されて挨拶を繰り返す中で相手の親しみを感じ、自分からしようとする。	○自分の物、人の物の区別がつく。 ○大人と一緒に食前や排便後の手洗いをしようとする。 ○大人と一緒に食前や排便後の手洗いをしようとする。 ○大人に促されて、生活の中の簡単な決まりや危険なことなどに気付く。 ・大人の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 ・大人と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。	○大人や同年齢の子供と、自分なりの言葉でおしゃべりする。 ○よいこと、いけないことが分かってくる。 ○大人に援助されながら、自分のことを自分でしようとする。
《規範》 決まり ルール マナー など	○大人の愛情豊かな受容によって、情緒が安定し、愛着関係が育まれる。保育所等では、なるべく一定の大人が関わるようにする。	○大人に甘えたり、言葉や物のやり取りをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。	○一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物を用意する。 ○「自分でしたい」という気持ちを尊重して、ゆったりと接しながらさりげなく手助けをし、自分でできた喜びを感じられるようにする。 ○簡単な決まりや危険なことなどに気付くように、遊具で遊ぶときに順番に並ばせたり、危ない場面で大人が分かりやすく注意したりする。	○自分の気持ちや要求を、自分なりに相手に伝えようとするを大切に。その際、具体的な言葉を教えたり、伝えたいことを仲介したりして、伝わったうれしさを感じられるようにする。 ○着替えや食事、トイレでの排泄など、身の回りのことを自分でできることを喜び、自信を磨いていけるように、子供が扱いやすい物や場所を工夫する。 ○遊びのルールは分かっているが、そのルールを受け入れられない子供もいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いをもてるようにする。	
大人の関わりで大切なこと	○大人の愛情豊かな受容によって、情緒が安定し、愛着関係が育まれる。保育所等では、なるべく一定の大人が関わるようにする。	○大人に甘えたり、言葉や物のやり取りをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。	○一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物を用意する。	○自分の気持ちや要求を、自分なりに相手に伝えようとするを大切に。その際、具体的な言葉を教えたり、伝えたいことを仲介したりして、伝わったうれしさを感じられるようにする。	

0歳児から5歳児の発達の道筋

大人の関わりで大切なこと

〈本指導資料で使用する用語について〉

- ・ 就学前教育施設…保育所、幼稚園、こども園等、就学前の保育・教育施設のことをいう。
- ・ 保育者…就学前教育施設における、保育士及び幼稚園教諭のことをいう。
- ・ クラス…就学前教育施設における、学級やクラスのことを総称していう。

(1) おおむね6か月未満～おおむね3歳

<p>視 点</p>	<p>おおむね6か月未満 情緒の安定のために、愛情をたっぷり</p>	<p>おおむね6か月から1歳3か月未満 温かい応答で、心地よいコミュニケーションを</p>	<p>おおむね1歳3か月から2歳未満 新しい行動は、大人の「まねっこ」から</p>	<p>おおむね2歳 「いや!」「じぶんで!」は成長の証 余裕をもった関わりを</p>	<p>おおむね3歳 「やってみよう」「やったらできた」 満足感を大切に</p>
<p>《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など</p>	<p>○落ち着いた雰囲気の中で、抱く、あやす、語り掛けるなどをしてもらうことで、安定した気持ちと喜びを味わう。</p>	<p>○大人と視線を合わせ、表情や喃語<small>なんご</small>などを通してやり取りを喜ぶ。 ○大人の語り掛けや働き掛けに、声を出したり、応えようとしたりする。</p>	<p>○生活や遊びの中で大人を仲立ちとして、簡単な単語や物のやり取りをする。 ○大人と触れ合ったり、話をしたりすることを通じて気持ちを通わせる。 ○思い通りにならないときに、自分本位の行動が目立つ。 ・他の子供に対して、かみついたり、ひっかいたりすることがある。</p>	<p>○一人遊びを楽しみながら、大人の仲介により、同年齢の子供にも関心をもって遊ぶ。 ○思い通りにならないときはかんしゃくを起こしたり、頑固な行動を取ったりする。 ○褒められたり、感謝されたりすることを喜ぶ。</p>	<p>○平行遊びだが、同年齢の子供と少しの間一緒に遊ぶ。 ○同年齢の子供との玩具の取り合いや気持ちのぶつかり合いなどの中で、大人の仲介により、相手の思いを知る。 ○大人に褒めてもらったりを喜び、頑張ろうとする。</p>
<p>《自立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など</p>	<p>○声や泣き声、ほほえみなどで自分の欲求を表し、なだめられたり、受け入れてもらったりすることで安心する。</p>	<p>○心地よいときは笑ったり、ほほえんだりし、不快なときは泣いて欲求を表す。 ○大人のすることに興味をもったり、まねをしようとしたりする。 ○大人の表情を読み取ろうとしたり、大人の言うことをほぼ理解したりする。 ○衣服の着脱など、身の回りのことに関わるようになる。 ・服を着せるとき、自分から袖に腕を通したり、パンツに足を通したりする。</p>	<p>○「～したい」「～がほしい」という思いが強まり、身近な大人に要求する。 ・指差しやしぐさなどで伝え、受け止めてもらうことを喜ぶ。 ○いけないことを注意されると、泣いたり、しょんぼりしたりする。 ○片付ける場所が分かり、片付いた状態を気持ちよと感じる。</p>	<p>○なんでも自分でやってみようとする。 ○自分の物、人の物の区別がつく。 ○遊んだ後に、大人と一緒に遊具を片付けようとする。</p>	<p>○大人や同年齢の子供と、自分なりの言葉でおしゃべりする。 ○よいこと、いけないことが分かってくる。 ○大人に援助されながら、自分のことを自分でしようとする。</p>
<p>《規範》 決まり ルール マナー など</p>	<p>○大人の愛情豊かな受容によって、情緒が安定し、愛着関係が育まれる。保育所等では、なるべく一定の大人が関わるようにする。</p> <p>○子供の動きや表情を読み取り、その子供のリズムやテンポに合わせて、会話を楽しむようなつもりで働き掛ける。</p> <p>○一人ひとりの生活リズムに合わせて生理的欲求を満たし、気持ちよく過ごせるようにする。</p> <p>○優しい言葉、声、まなざし、笑顔での働き掛けなどを通して、子供の情緒の安定や人との心地よい関わり、周囲への関心を育んでいく。</p>	<p>○子供が模倣しやすいように、言葉や動作をゆっくりと大きく行うようにし、子供の思いや要求に丁寧に対応し、やり取りをする。</p> <p>○快・不快など子供の伝えたい気持ちを受け止め、言葉を掛けながら対応する。</p> <p>○人見知りや後追いなど、子供が不安を表したときは、抱きしめるなどして温かく受け止め、子供が安心感をもてるようにする。</p>	<p>○大人に甘えたり、言葉や物のやり取りをしたがったりする姿を十分に受け止めて温かく応じ、安心感や信頼感をもてるようにする。</p> <p>○指差しや身振り、片言で伝えようとしていることを受け止めて言葉にして返し、子供が気持ちを伝える喜びや受け止められる心地よさを感じられるようにする。</p> <p>○自分の思い通りにいかないと感情的に混乱する場面も見られる時期である。まず子供の気持ちを全面的に受容し、受け止められている安心感をもたせ、情緒の安定を図る。その上で、相手が痛かったことや悲しかったこと、してはいけないことなどを伝えていく。</p>	<p>○一人遊びが十分にできるように、興味をもった遊びを楽しめる場や物を用意する。 ○「自分でしたい」という気持ちを尊重して、ゆったりと接しながらさりげなく手助けをし、自分でできた喜びを感じられるようにする。</p> <p>○大人に促されて、生活の中の簡単な決まりや危険なことなどに気付く。 ・大人の援助で、「順番」や「交代」などのルールがあることを知る。 ・大人と一緒に簡単なルールのある遊びを楽しむ。</p>	<p>○自分の気持ちや要求を、自分なりに相手に伝えようとするを大切にする。その際、具体的な言葉を教えたり、伝えたいことを仲介したりして、伝わったうれしさを感じられるようにする。</p> <p>○着替えや食事、トイレでの排せつなど、身の回りのことを自分でできることを喜び、自信を重ねていけるように、子供が扱いやすい物や場所を工夫する。</p> <p>○遊びのルールは分かっているが、そのルールを受け入れられない子供もいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いをもてるようにする。</p>
<p>大人の関わりで大切なこと</p>	<p>○生活や遊びの中で大人を仲立ちとして、簡単な単語や物のやり取りをする。</p> <p>○大人と触れ合ったり、話をしたりすることを通じて気持ちを通わせる。</p> <p>○思い通りにならないときに、自分本位の行動が目立つ。 ・他の子供に対して、かみついたり、ひっかいたりすることがある。</p>	<p>○「～したい」「～がほしい」という思いが強まり、身近な大人に要求する。 ・指差しやしぐさなどで伝え、受け止めてもらうことを喜ぶ。</p> <p>○いけないことを注意されると、泣いたり、しょんぼりしたりする。</p> <p>○片付ける場所が分かり、片付いた状態を気持ちよと感じる。</p>	<p>○なんでも自分でやってみようとする。</p> <p>○自分の物、人の物の区別がつく。</p> <p>○遊んだ後に、大人と一緒に遊具を片付けようとする。</p>	<p>○大人や同年齢の子供と、自分なりの言葉でおしゃべりする。</p> <p>○よいこと、いけないことが分かってくる。</p> <p>○大人に援助されながら、自分のことを自分でしようとする。</p>	<p>○自分の気持ちや要求を、自分なりに相手に伝えようとするを大切にする。その際、具体的な言葉を教えたり、伝えたいことを仲介したりして、伝わったうれしさを感じられるようにする。</p> <p>○着替えや食事、トイレでの排せつなど、身の回りのことを自分でできることを喜び、自信を重ねていけるように、子供が扱いやすい物や場所を工夫する。</p> <p>○遊びのルールは分かっているが、そのルールを受け入れられない子供もいる。その気持ちを受け止め、一緒に遊んで楽しかったという思いをもてるようにする。</p>

(2) 3歳児～5歳児

<p>視 点</p>	<p>3歳児 大人と一緒に決まりを守る体験を</p>	<p>4歳児 相手の気持ちに触れる体験をたっぷり</p>	<p>5歳児 みんなと一緒に生活することの楽しさを基に、自立に向けて応援を</p>
<p>《関わり》 親しみ 自己発揮 共感 調整 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○大人や同年齢の子供と一緒に遊ぶことを喜ぶ。 ○安心感をもって、伸び伸びと自分を表して行動する。 ○身近な様々な人と触れ合うことを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思いや考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 ○うまくいかないことや葛藤場面を通じて、相手にも思いや考えがあることに気付く。 ○何かをしてあげたり、してもらったりすることを喜ぶ。 ○同年齢の子供とのつながりを感じながら、皆で行う活動の楽しさを味わう。 ○異年齢の子供、家族以外の大人や地域の方などに親しみをもち、一緒に活動する楽しさを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同年齢の子供と考えが違ったときに、折り合いを付けながら、うまくいかない場面を乗り越えようとする。 ○一人ではできないことを協力して行う喜びや満足感を味わい、互いのよさを認め合う。 ○異年齢の子供、高齢者をはじめ地域の方などと関わり、思いやりや親しみをもつ。
<p>《自 立》 自信 判断 身だしなみ 礼儀 など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○様々なことを自分なりに行き、できた喜びを十分に味わう。 ○同年齢の子供の反応や大人の働き掛けから、してよいことと悪いことが分かる。 ○大人に見守られたり、手伝ってもらったりしながら、身の回りのことなどのできることは、自分でしようとする。 ○一日の生活の流れを感じ取り、自分から行動しようとする。 ○簡単な挨拶や伝言をしたり、返事をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分なりにやり遂げた満足感や、身近な人に認められる喜びを通して、自信をもつ。 ○大人や同年齢の子供の言動を受け止めて行動しようとする。 ○困ったことやしてほしいことを自分から大人に伝える。 ○してよいことと悪いことが分かり、状況を感じて自分なりに行動しようとする。 ○遊びや生活に合った身支度をしようとする。 ○大人や同年齢の子供に気持ちよく挨拶する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○繰り返し挑戦して達成したり、様々な人に認められたりすることを通して、自信をもつ。 ○周囲の状況や同年齢の子供の思いを感じ取って行動しようとする。 ○クラスの一員として、してよいことと悪いことがあることが分かり、考えながら行動する。 ○遊びや生活に合った身支度を考え、すすんで行う。 ○場面に応じた挨拶をしたり、高齢者やお客様に対して丁寧な言葉を使おうとしたりする。
<p>《規 範》 決まり ルール マナー など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生活や遊びの中には、安全のためなどに必要な決まりがあることを知り、それを守ろうとする。 ○みんなで使う物があることが分かり、一緒に使おうとする。 ○遊具や用具の貸し借り、交代や順番待ちの際に、必要な言葉を使う。 ○大人の手伝いをすることを喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同年齢の子供と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気付き、守ろうとする。 ○安全のために必要な決まりや行動の仕方が分かり、自分から行おうとする。 ○共同のものを大切に、みんなで使う。 ○簡単なルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。 ○生活に必要なことに気付き、手伝いや当番などに興味をもって取り組む。 ○公園や図書館など、公共の場所での過ごし方が分かり、守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○同年齢の子供と一緒に遊びを発展させる中で、自分たちで遊び方や決まりをつくり出し、守って遊ぶ。 ○安全のために必要な決まりが分かり、遊びや生活の中で、危険なことを自分で判断する。 ○共同の遊具や用具を大切に、譲り合って使う。 ○生活に必要なことを同年齢の子供と一緒に進め、自分の役割を行うことに喜びを感じる。 ○公園や図書館など、公共の場所での過ごし方を理解し、意識して行動する。
<p>大人の関わりで大切なこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○できるようになったことや表現したこと、考えたことなどを、他の子供と比べるのではなく、その子供の成長として受け止め、認めていく。 ○やってよいことと悪いことがあることを、その都度知らせる。悪いことをしたときには、どこが悪かったのかを伝え、きちんと叱る。 ○規則正しい生活を大切にし、食事、睡眠、清潔などの生活習慣が身に付くようにする。 ○子供が自分で身の回りのことをしようとする気持ちや、できた喜びをもてるように、着脱しやすい服や靴、扱いやすい持ち物や置き場所などを整える。 ○「貸して」などの言葉や交代、順番等の決まりなど、子供同士で活動する上で必要なことを伝え、大人と一緒に行動しながら、徐々に自分でできるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供の様子を大人同士で話し、同年齢の子供との葛藤やトラブルを通して子供が育つことを知ったり、共有したりする。 ○けんかの場面では、双方が相手の思いにも気付けるように大人が仲介する。その子供の気持ちを受け止めて心を落ち着かせたり、その後どうしたらよいかを一緒に考えたりして、気持ちを切り替えて遊べるように支える。 ○子供が自分で行おうとしている気持ちを尊重し、大人が先に指示したりせずに温かく見守り、できたことを共に喜ぶ。 ○よいことや悪いことなど、子供が気付いたことや考えたことを十分に受け止め、そこから必要なこと、大切なことを一緒に考えていくように関わる。 ○生活に必要なことを子供と一緒にしたり、簡単な手伝いをさせたりし、そのことで気持ちよく生活できることを伝え、共感する。 ○ルールがある遊びを大人も一緒にしながら、その楽しさや負ける悔しさなどを共に味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な人（地域の方、親戚、同年齢の子供の家族など）と関わる中で、その場に合った行動や人への接し方を、子供が経験できるようにする。 ○遊びや友達関係がうまくいかない場面では、子供が、様々な出来事や感情に向き合いながら乗り越えていけるように、一緒に考え、支えていく。 ○家庭や集団生活での決まりや手伝い、当番活動などを、子供が中心になって考えて実行する機会をつくり、取り組む姿を認めて自信をもたせる。 ○自分で考えて判断し、発言したり行動したりする姿を認めていく。 ○継続してできる手伝いをさせ、感謝の気持ちを伝えることで、家族の一員としての自覚と誇りを子供が実感できるようにする。 ○日常生活の中で、交通安全や地域社会のルールについて教える。 ○公共の場でのルールやマナーを実際の場面を通して知らせ、子供が理解して行動できるようにしていく。